

琉球大学学術リポジトリ

特集〈松岡家文書の世界〉に寄せて

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: 出版者: 琉球大学法文学部 公開日: 2019-07-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 武井, 弘一 メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/44667 |

特集<松岡家文書の世界>に寄せて

武井 弘一

Preface: "Matsuoka family's documents"

Koichi TAKEI

「なぜ沖縄で琉球史ではなく、日本近世史を研究するのか。」

かつて琉球国のあった沖縄県では、歴史学の本流は琉球史であり、日本近世史は外国史といってよい。したがって、沖縄で日本近世史を研究するためには、必ず冒頭の一文を問い続けなければならない。

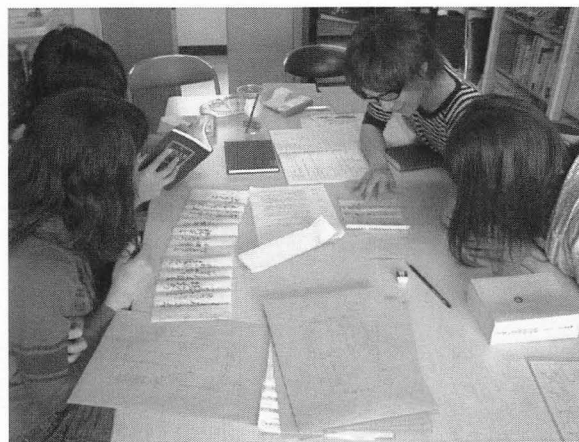
琉球大学近世史ゼミナール（以下、近世史ゼミと略記する）は、琉球大学法文学部人間科学科地理歴史人類学専攻課程のなかで、日本近世史を専門とする学生が主体となって、2009年4月より研究活動を進めてきた。毎年、1冊の文献を全員で講読・発表し、各自が卒業論文の執筆に向けた準備報告をおこなう。しかし、日本近世史を研究するにあたり、忘れてはならない研究活動がある。古文書の調査である。日本各地には、古文書と呼ばれる古い文書類が多く残されており、日本近世史の研究を志す者は、その古文書を整理し、解読していくことで、研究のスキルを高めていかなければならない。

ところが、近世史ゼミが発足した当初は、この古文書調査ができるのか危うい状況であった。なぜなら、沖縄には日本近世史の古文書がないからである。おもな理由は、2つある。第一は、そもそも沖縄に残されている古文書は、日本近世史のものではなく、琉球史に関するものだからである。第二は、仮に琉球史の古文書を調査しようとしても、それも残っているケースが少ないからである。沖縄戦によって、古文書類が灰燼に帰してしまったことが、その原因である。

写真1 整理開始（2009年4月）



写真2 解読開始（2009年5月）



そういう事情をふまえたうえで、近世史ゼミでは、調査を目的として、日本本土から古文書を借り受けた。「肥後国八代郡高田手永松岡家文書」（以下は、松岡家文書と略記する）である。松岡家文書からは、近世中期から近代にかけての熊本県八代市一帯のことだけではなく、熊本藩の政治、球磨川下流域の開拓、家の相続、熊本近代史などの点で、多くの史実が明らかになると期待できる。

本特集では、＜松岡家文書の世界＞と題して、近世史ゼミの研究成果を2つ掲載した。松岡家文書の概要と、近世後期の当主・松岡忠九郎のライフサイクルについてである。もちろん、これで松岡家文書の調査が終わるわけではない。これからも1点1点の古文書を大切にしつつ、冒頭の一文を問いながら、近世史ゼミのメンバーは研究を進めていきたい。

最後になりましたが、先の戦争で多大な被害を受けた沖縄では、歴史学研究の基本となる古文書調査ができません。「過去の戦禍で失われた沖縄歴史を思う時、我家の過去がお役に立つことを有難きことと感謝申し上げます」と、熊本県から海を越えた、遠い沖縄県で古文書を調査する機会を与えてくださった所蔵者の松岡寛治先生に、ここに記して感謝の意を表します。